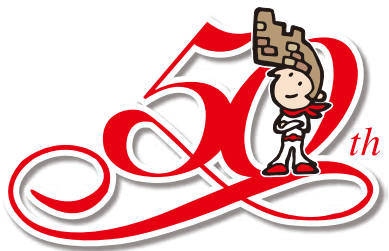


大野城市マップ



2022(令和4)年
大野城市市制施行50周年

往還とにぎわいルート

旧太宰府往還と西鉄沿線

旧太宰府往還(旧日田街道)は江戸時代、博多と日田を結ぶ主要な道であり、多くの人々の往来があったと考えられます。
一方、西鉄天神大牟田線では、鉄道の高架化が進められ、沿線の商店街などを含めた新たなにぎわいの創出が図られています。
それぞれに魅力がある新旧のにぎわいをお楽しみください。



1 新川 しんかわ

この地には、江戸時代に博多まで年貢米などを運搬するため、福岡藩によって造られた運河がありました。しかし、水量が少なく通航効率が悪かったため使用をやめ、一部を残して運河は埋められました。残っていた川のの一部も昭和後期に埋められましたが、運河の歴史的意義を後世に伝え活用を図るために、緑地遊歩道として整備されたものです。



2 筒井の井戸 つつのいど

地名の由来と伝えられる井戸です。「筑前国続風土記」に、「雑餉隈より南の村に、木の筒を井戸にした井戸があり、それで村の名前が「筒井」となった。」という記述があります。現在は、花崗岩で作られた井戸枠が残っており、県有形民俗文化財に指定されています。



3 春日原停留所運動場の碑 ときわめつうしんばのうしろのいし

大正13年、現在の西鉄天神大牟田線の春日原駅に過ぎる道を、個人が私有地と工事費を寄付し、開通したことを記念して建立された石碑です。当時、総合運動公園も造られ、プロ野球も開催されるなど、この界隈がにぎわっていた歴史を残す標石です。



4 郡境界標 ぐんきょうがいひょう

旧太宰府往還(旧日田街道)の名で、当時の御笠郡と那珂郡の境界を示すための道標です。市指定有形文化財で、保存のために大野城心のふるさと館に移設し、跡地には記念碑と説明板が設置されています。



5 木造聖観音立像 ぼくぞうしやう

住宅地の小さなお堂に、高さ1メートルほどの像が祀られています。室町時代に作られたこの像は、県内でも大変珍しい姿の聖観音立像で、県の有形文化財に指定されています。保存会が設けられ、身近な信仰の対象として親しまれています。



6 消防ポンプ格納庫 しやうぼうくふかく

大正末期に建てられた赤煉瓦造りの近代建築物で、市内に残るものとして貴重な文化財です。街路拡充に伴う移築の際には、市民の協力によって解体され、当時の赤煉瓦の一部使用し、現在の場所に建てられました。

御笠川ルート

御笠川

御笠川は、宝満山を源とし博多湾に注ぐ二級河川です。市内を流れる牛頭川と平野川、川久保川、平田川も御笠川の支流です。これら水系が市内各地を潤しています。
御笠川の特徴は、地域の歴史や文化を今に伝える史跡が川沿いに点在することです。川に沿って上流へ歩くと、水城跡、大宰府政庁跡、太宰府天満宮などの重要な史跡に向かいます。御笠川に点在する史跡を巡り、その歴史や文化に思いをさせてみてください。



1 御笠の森 みかさのもり

「御笠」の地名は、「日本書紀」に神功皇后が笠を吹き落され、その地を御笠と名付けたことに由来します。森の中には大伴宿禰百代の万葉歌碑などが残され、先人の残した歴史に触れることができます。



2 仲島遺跡 なかしまいせき

弥生時代から奈良時代にかけての遺跡です。住居・建物跡、井戸、墓地、大きな溝などが見つかりました。「貨布」「八面書土器」「移動式かまど」などの発掘品は市の文化財に指定され、大野城心のふるさと館に展示されています。「貨布」の発掘場所に解説板があります。



3 立花寺橋のビューポイント たちばなでらこのみち

自然とまちなみの風景は、福岡空港に離発着する大きな航空機がコラレーションする眺めを楽しむことができます。



4 宮添井堰の碑 みやぞえいせきのひ

「ひんどの人柱と火の玉」の伝説にまつわる記念碑です。その伝説は「むかしむかし、御笠川の度重なる氾濫に困り果てた村人たちは、人柱をたてて井堰を築くことにしました。その時、庄屋番兵衛さんがある提案をし、無事に完成した宮添井堰は、その後の大洪水にも壊れず田畑を潤し、豊作が続いて豊かな村になりました。」という内容です。



5 大文字公園 だいもんじこうえん

御笠川と牛頭川が合流する川辺に、整備された広い公園です。川沿いを散歩する人や、地域の人々などの憩いの場所となっており、毎年9月には、「おおの山城大文字まつり」が開催され、多くの人でにぎわっています。



山城ルート



1 大野城心のふるさと館

大野城心のふるさと館は、歴史・こども・にぎわいをキーワードに、「ふるさと大野城」をまるごと体感できる施設です。大野城市の歴史の移り変わりの解説や、文化財の展示などの他、ウォールクライミングなどの体験コーナーも整備されています。「特別史跡大野城跡」をはじめ、日本遺産に関する情報も満載です。



2 道標石 どうひょうせき

金蓋の古い集落の石柱で、刻字から江戸時代中期に金蓋の人々によって建てられたことが分かります。道標自体が旅行や行路安全の神さまとして人々に信仰されてきた大変珍しいものであり、両脇にはいつのころからか2体の仏像が据えられています。

乙金地区の古墳群

乙金山・四王寺山の麓には、古墳時代を通じて多数の古墳が造られました。トレイルでは、その一部をご紹介します。古墳時代にどのような暮らしがあったのか、現地に立って思い描いてみましょう。



3 雉子ヶ尾古墳 きじおこふん

6世紀の終わりの頃(古墳時代後期)に造られた古墳です。古墳周辺は住宅地となっていますが、開発前の発掘調査では集落跡や須恵器窯跡も発見されています。



7 善一田古墳公園 ぜんいちだこふん

6〜7世紀頃の群集墳であり、直径約25mの18号墳をはじめ、多数の古墳があります。水城・大野城築造前にこの地域をおさめたと考えられています。9基の古墳が保存されており、県史跡に指定されています。



8 王城山4号墳 おおぎやま4ごうふん

6世紀の終わりの頃(古墳時代後期)に築かれた円墳(直径15〜16m)です。乙金山王城山の麓山、七ノタミナカカムラ等の敷地内に保存されています。横六式石室が完全な形で残っています。発掘調査では、須恵器・勾玉・刀子・鉄剣・鳥具などが出土しています。(私有地ですので見学の際はご注意ください。)



「〜自然と歴史の散策路〜大野城トレイル」を歩かれる方向けにトレイルマップを用意しています。

トレイルマップには、大野城トレイルを歩く上で必要となる、ルートの記載や誘導サインの説明だけでなく、見どころに関する写真付きの解説も記載されています。

大野城市内では以下の施設でトレイルマップを配布している他、ホームページでもご覧いただけます。

- 大野城市役所
- 大野城心のふるさと館
- 大野城まどかびあ
- 各コミュニティセンター
- 大野城市総合体育館



大野城跡(四王寺山)

「日本書紀」に記されている日本最古の山城であり、市名の由来にもなっています。天智4(665)年、四王寺山(大野山)の地形を利用して築かれた朝鮮式山城です。

巨大な山城で、土塁で囲まれた範囲は約200haに及びます。「特別史跡大野城跡」に指定され、更に「日本100名城」。「美しい日本の歴史100選」に選ばれるなど、多くの人に親しまれています。



4 大野城歴史の散歩道 おおのしやんぼ

大野城跡を歩きながら、歴史を学び自然を体験し、健康を得ることができる。整備された歩きやすい登山道です。
施所に素晴らしい眺めが望めるスポットがあり、季節ごとに植物の彩りを楽しむこともできます。



5 毘沙門堂 びしゃもんどう

大野城が築かれた約100年後、宝亀5(774)年に、四天王を祀る四王院が建立されました。毘沙門天、広目天、持国天、増長天という地名が今も残り、その一つに建立されているのが毘沙門堂です。
毘沙門堂は、1月3日早朝から多くの参拝の人でにぎわい、この日に毘沙門さまからお賽銭を借りて、翌年に2倍にしてお返しすると、金運に恵まれると伝えられています。



6 乙金宝満神社 おとがほうまん

創建は文禄4(1595)年で、その後現在の場所に移されました。本殿には御神体として女神像一体と木碑二基が祀られています。



9 宮添井堰の碑 みやぞえいせきのひ

「ひんどの人柱と火の玉」の伝説にまつわる記念碑です。その伝説は「むかしむかし、御笠川の度重なる氾濫に困り果てた村人たちは、人柱をたてて井堰を築くことにしました。その時、庄屋番兵衛さんがある提案をし、無事に完成した宮添井堰は、その後の大洪水にも壊れず田畑を潤し、豊作が続いて豊かな村になりました。」という内容です。



ため池ルート

ため池群

上大利地区には多くのため池が残されています。これらのため池は、江戸時代以降、上大利村、下大利村、白木原村といった村々に農業用水を安定供給する役割を担ってきました。現在、三兼池や日の浦池は、市民の身近な親水公園として親しまれています。



1 新池 しんいけ

水城跡の西端に位置するため池です。周囲には遊歩道が整備されており、自然を感じながら水辺空間を楽しむことができます。水城ゆめ広場にあるあずまやは新池を望みながら休憩することもできます。



2 三兼池 みかねいけ

噴水や展望テラスがあり、市民の憩いの場として親しまれています。ため池のほとりに建つ碑は、用水路の建設に尽力した偉人の功績を称える「溜井之碑」です。公園内に残る6〜7世紀ごろの須恵器窯跡である「梅頭窯跡」(国指定史跡「牛頭須恵器窯跡」の一つ)を見学することもできます。



3 溜井之碑 ためいのいし

私財を投じ、牛頭からの用水路を完成させた森山庄太の功績を称える石碑です。牛頭川の北田井堰より取水された水は、日の浦池を通り、三兼池に注いでいます。この完成によって、白木原村、上大利村、春日村は、干ばつの時でも豊かな実りを得ることができるようになりました。



4 日の浦池 ひのうらいけ

なだらかな丘陵地に位置するため池です。水際を結ぶ散策路をはじめ、多くの人々に親水空間として親しまれています。公園内にはヒートアップがあり、気軽に自然と触れ合うことができます。かつて、この地域の人々の生活を潤したため池に想いを馳せながら、のんびりとした時間をお過ごしください。



5 上大利小水城跡 かみおおりしょうみずさど

県道31号線沿いに位置し、高さ約2m、底部幅最大幅約15m、長さ約80mですが、本来はもっと長かったと推測されます。水城跡と同じ頃に防御施設として造られたと考えられ、小水城ゆめあかり広場として整備されており、地域の人々の憩いの場になっています。



6 父子嶋 てとこじま

旧水城跡西側、住宅地の中にある小山です。伝説には、水城が完成した時に働いていた親子が放り出した土が積もってできた小山だと伝えられています。

南地区

牛頭須恵器窯跡ルート

牛頭須恵器窯跡

牛頭地区周辺では、古代の焼物「須恵器」を焼いた窯跡が数多く発見されています。窯跡は、6世紀中ごろ(古墳時代)から9世紀中ごろ(平安時代)に造られ、その総数は600基に迫ると推定されています。九州最大の須恵器窯跡であり、平成21年2月に国史跡に指定されました。



1 梅頭窯跡 うめがしらかまあと

国指定史跡牛頭須恵器窯跡の一つです。窯は6世紀末〜7世紀ごろに使われたと考えられています。窯内にあった鉄刀などの発見によって、窯の操業終了後、墓に転用されたと考えられています。



2 天狗の鞍掛けの松 てんぐのくらがけのまつ

いたずら好きの天狗にまつわる伝説にちなみ、「天狗の鞍掛けの松(4代目)」が植えられています。現地には、記念碑が建てられています。



3 平野神社 ひらのじんじや

西暦1000年ごろ創建と伝えられる市内で最も古い神社です。祭神には久度社(薬の神)、古閑社(使用済みの薬の神)などが祀られています。牛頭須恵器窯跡と関わりがあるのかも知れません。



4 いこいの森水辺公園 いこいのもりみずべどうえん

牛頭ダムを囲むように整備された4つの公園のうちの1つです。せせらぎが整備された水遊びが楽しめます。大自然の中、せせらぎのひとつときをお楽しみください。



5 胴ノ元古墳 どうのもとこふん

牛頭浄水場の東隣の丘陵上にあった古墳を移築、復元整備したものです。古墳時代後期に造られた直径11mの円墳で、牛頭須恵器窯跡が操業されていた。

中央地区

牛頭川

若草公民館

平野神社

胴ノ元古墳

月の浦公民館

月の浦小学校

いこいの里

平野台公民館

平野台ふれあい公園

平野台なかよし公園

平野台公園

平野台公園

平野台公園

平野台公園

平野台公園

平野台公園

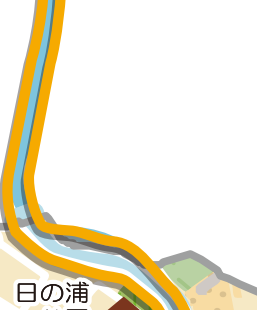
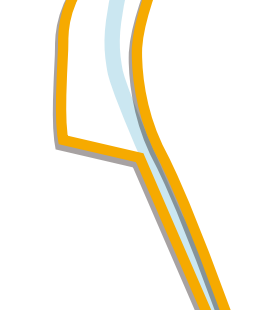
平野台公園

平野台公園

平野台公園

平野台公園

平野台公園



太宰府IC



ふるさと水城跡公園

水城跡ルート

水城跡

国指定の特別史跡であり、「日本書紀」にも記されている巨大な防御施設です。天智3(664)年に築かれ、全体の長さは約1.2kmあります。最大幅約80mの土塁と幅約60mの外堀が造られていました。当時の姿を残す遺跡を巡ると、その壮大さを実感するでしょう。



1 土塁断面ひろば どうりだんめんひろば

水城の土塁(大堀)の構造と造り方を解説している広場です。土塁は崩れないように砂質土と粘性土を交互に入れて固く突き締められています。この工法を版築といい、断面は織状に見えます。また、地盤が軟らかい部分は葉がついたままの枝を切って敷き詰め盛土を行っています。この工法を敷相築(しきそだ)工法や敷築(しきば)工法といい、現代の土木技術にも通じるものです。



2 西門跡 にしもんあと

水城跡には北側から大宰府に入る東西2つの門があり、西門は発掘調査の結果2回建て直されていることが分かっています。官道の延長線上に筑紫館(のちの蒲鉾館)があったため、外交使節などはここを通過していたと考えられています。



3 水城ゆめ広場 みずさゆめひろば

特別史跡水城跡を現地ですぶことができる史跡めぐりの拠点です。解説板やトイレ、あずまやが設置されています。水城跡の西門跡まで約500m歩いて行くことができます。

田園と牛頭川ルート

牛頭川

大野城市と春日市を流れる二級河川です。御笠川の支流であり、大文字公園付近で御笠川に合流しています。牛頭ダムの下流では、夏季に入ると虫が飛び交うことから、見物の人々の涼み姿でにぎわう場となっています。



1 不動城跡 ふどうじょうあと

戦国時代の山城です。牛頭川にある奈良原兵庫助高政の墓所には奈良原氏が城を築いたことが記されています。『筑紫家文書』には筑紫氏の武将である備前兵庫が在城していたことが記されています。住宅開発のため部分的に削られましたが、主要部分の遺構は山面に残されています。



2 山の神 やまのかみ

牛頭川の上流域、牛頭ダムを周回する道路の脇にある小さな祠です。縁起や由来を示すものはありませんが、山の神との名が示すように、山仕事の無事息災を祈願する守護神として祀られています。



3 牛頭ダム うしくびだむ

県営の治水ダムとして牛頭川に建設されました。高さ52.7mのロックフィルダム(岩石や土砂を積み上げて建設する型式のダム)です。ダムによって形成された人造湖は大野貯水池と呼ばれ、親しまれています。ダムの周りはいこいの森として整備されています。



4 牛頭の田園風景 うしくびのでんえんふうしやう

かつて田園が広がっていた本市の中で、その原風景としての美しい田園風景は、今は牛頭川上流でのみ見ることができます。田園地帯は約1kmにわたって、春には青田の風景、秋には黄金色の田園風景や彼岸花を見ることができます。



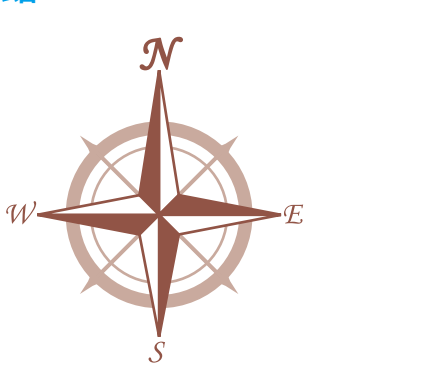
5 薬師の杜 やくしのもり

目の神様として祀られている薬師堂の境内にある森の森です。エノキ、クスノキ、タブノキなどの木々が育ち、市の天然記念物に指定されています。



6 牛頭小学校跡 うしくびしょうこうこうあと

平野神社北側に「牛頭下等小学校」として明治7(1874)年に創設、明治12(1879)年に「牛頭小学校」に改称されました。当初の場所から3回移転し、今は「大野南小学校」と呼ばれています。明治42(1909)年から昭和46(1971)年まで学校があった場所には、記念碑が建てられています。



- ルートの主な基点
- 見学ポイント
- 駐車場
- トイレ
- 休憩スペース

